

(第三種郵便物認可)

平常心で力出し切る

きょうから 共通テスト

県内各高校で出陣式

大学入学共通テストが13、14の両日に行われるのを前に、県内の各高校で12日、出陣式が行われた。教職員や先輩が受験生の緊張をほぐす大喜利やエールで激励。3年の間に新型コロナウイルス禍を経験した生徒は互いの努力をたたえ、自らの力を出し切ることを誓った。

◇

鶴岡南 197人が出陣式では遠田達浩校長が

担任団の劇で笑顔を見せる受験生たち 鶴岡市・鶴岡南高



「びくびくせず、高ぶり過ぎず、平常心で力を全て発揮してほしい」と励ました。



担任団がアーチエリーの矢で「不安」や「緊張」と書いたのを射抜く劇を披露し、会場を沸かせた。前生徒会長の渡部泰仁さん(18)が「積み重ねてきた自信を

持ち、2日間、最後まで頑張ろう」と呼びかけ、全員で氣勢を上げた。(相原健佑)

米沢興譲館

教職員や先輩が3年生約200人を激励した。

曾根伸之校長が「皆さんの夢がスタートする。迷うことはない。信じる道を進んでほしい」とあいさつし、だるまに目を書き入れた。各クラスの代表が「緊張したら親や仲間の顔を思い出そう」「応援を力にして頑張りたい」などと呼びかけ、自らと仲間を奮い立たせた。後輩の応援団10人の熱

氣勢を上げる受験生

米沢市・米沢興譲館高

2024年
24年 (令和6年) 1月13日 (土曜日)

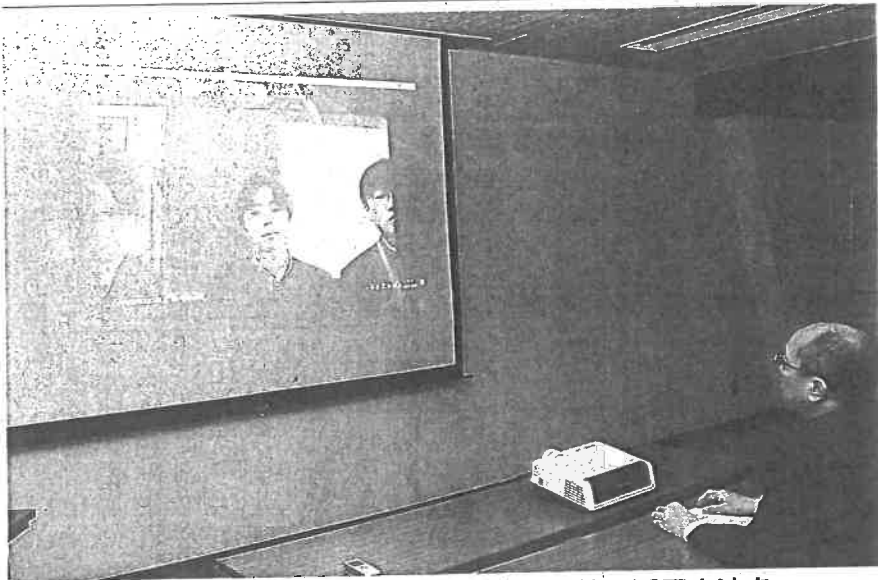
生成AI こう活用

米沢興譲館高生 南陽市に提案

米沢市の米沢興譲館高(曾根伸之校長)の生徒4人は、自治体での生成人工知能(AI)の有効な活用方法についての学習に取り組んでいる。南陽市役所職員に対して生成AIの活用方法についての提案を行うなど、外部にも活動の幅を広げている。

学習しているのは、いずれも国際探究科2年の山口翔平さん(17)、和田歩大さん(17)、松木真明さん(17)、渡部史鵬さん(17)。4人は同校のSSR(スーパーサイエンスリサーチ、課題研究)の中で、生成AIをテーマに据え、全国の自治体での活用事例をパソコンや電話取材などで調べている。

自分たちが考える生成AIの有効な活用方法について



米沢興譲館高の生徒が生成AIの有効な活用方法を南陽市役所に提案した発表会

と和田さんの出身地である南陽市に対して発表を行った。ビデオ会議アプリZoomを使用して市役所と同校をつなぎ、白岩孝夫市長や市職員約20人が聴講

した。市のホームページや通信アプリ「LINE」の公式アカウントに、市民の質問や要望を受け付ける自動対話システム「チャットボット」を導入することなどを提案した。

同市は、今月から3カ月間、AIを地域課題解決につなげる政策づくりに活用する実証実験を行っている。白岩市長は4人に対して、「これからも市に対してさまざまな提案をしてほしい」と話していた。

(菊地健介)

雪菜 おいしさ伝えたい

米沢興譲館高生

米沢市の伝統野菜「雪菜」をより多くの人たちに味わってもらおうと、米沢興譲館高(同市、曾根伸之校長)の2年生4人が独自のレシピを考案した。雪菜は主に漬物として活用されているが、一般家庭でも親しみやすい調理法を発信することで、古くから受け継がれてきた食材の魅力をさらに広めたい考えた。

同校のSSR(スーパースイートサイエンスリサーチ、課題研究)の一環で、地域振興コースの生徒のうち4人が雪菜をテーマに活動した。雪菜の加工は「ふすべ漬け」がメインだが、今回は「雪菜と豚肉の味噌炒め」「雪菜ぶりかけ」といったメニューを考えた。

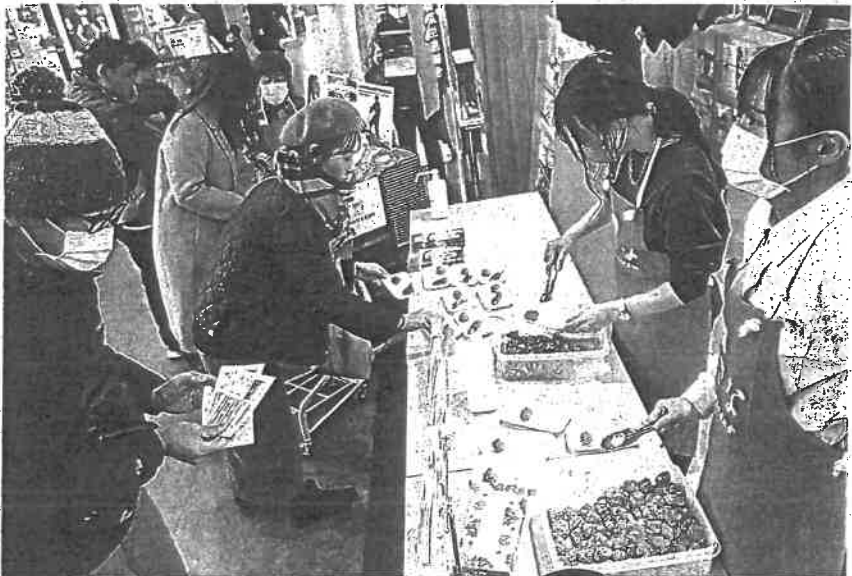
21日に同市の道の駅米沢で試食会を開催。雪菜産地消につなげたいと狙った」とし「雪菜の知名度を上げ、出荷増や地

レシピ考案、試食会で好評

を使った肉団子やベーコン巻きを提供し、どちらが好みだったかアンケート調査も行った。料理を生かし、雪菜のより良い

調理法をまとめ、2月の発表会で披露する。市上長井雪菜生産組合の吉田清志組合長(60)「同市古

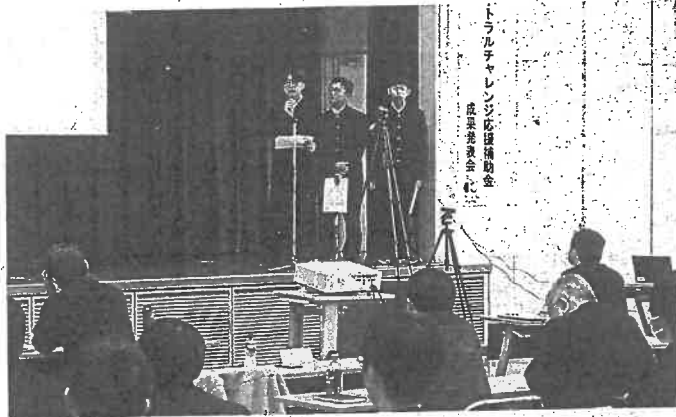
志田町は「若い世代がPRに取り組んでくれることは大変ありがたい。雪菜を知らなかった人たちにも興味をもってもらえたらうれしい」と期待を込めた。(斎藤健太)



米沢興譲館高生が考案した雪菜メニューの試食会
米沢市・道の駅米沢

脱炭素へ 光るアイデア

山形 高校生が研究成果披露



県内高校の10グループがアイデアを提示した
＝県庁
成果発表会

県の補助金を活用し、「カーボンニュートラル」の実現に向けた研究などに取り
組む高校生の成果発表会が
30日、県庁で開かれた。10
グループが風力や太陽光に

よる発電などを提示し、温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指すアイデアを披露した。

村山産業、山形東、山形工業、天童、米沢興譲館の県内各校の生徒が参加。発電効率の高い小型風車の製作、自作の太陽光発電パネルと市販品との性能比較、微生物発電に適した土壌環境を探る実験などを紹介した。果実の廃棄を減らそうと規格外のサクランボと地元伝統野菜・ハッカを使った商品を開発したり、カーボンニュートラルの認知度を調査し、一層の浸透を図って啓発したりといった活動報告もあった。

山形大カーボンニュートラル研究センターの吉田司代表、県環境科学研究所センターの青木政浩所長が、研究手法やプレゼンテーションの改善点をアドバイスした。生徒たちは「工学分野以外の取り組みを知って、視野が広がった」「助言を生かして研究をレベルアップさせたい」などと感想を語った。

県は昨年度、「カーボンニュートラルチャレンジ型応援補助金」を創設。脱炭素社会の担い手となる若い世代の研究などを後押しし、意識醸成を図っている。

(吉村 瑛人)

CO₂削減など 研究成果発表

米沢興譲館高

米沢市の米沢興譲館高（曾根伸之校長）の探究活動発表会が5日、同校で開催された。写真。1、2年生約400人が、二酸化炭素（CO₂）削減や地域振興などのテーマで取り組んだ成果を披露した。

同校は文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）に指定されており、理系、文系問わず、

「キジクル」に
A-編集動画



生徒がテーマを設定して研究に取り組んでいる。

テーマは▽温泉を利用した発電▽食料残さを利用し

た環境に優しいコンクリートの開発▽同市特産の雪菜の活用法ーなど多彩。発表では山形大や米沢栄養大、市、地元企業などの指導助言者から指摘を受け、考えを深める場面もあった。

2年生を対象に審査が行われ、13グループが5月の成果発表会に進んだ。

（大坪千絵）

若者の声

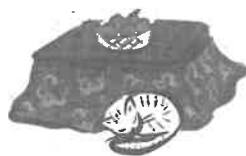
米沢興讓館高

母校に別れ、名残惜しい

3年 石井倅之介

驚くほど早い時の流れの中、高校での3年間を思い返している。いつも刺激的で、自由で、時々小難しくても、やっぱり楽しかった。出会った全ての人たちに感謝を伝えたい。

つて同じ授業を受けることこそなかったが、多くのことが思い出される。ただでさえ暑い夏の日、灼熱の鉄板で焼きそばを炒めた文化祭。面白いように負けが続いて、見事最下位を獲得した体育祭。ウィットに富んだ会話と、ハイセンスな



黒板の落書き…。
知的好奇心にあふれ、みんなの個性が重なって化学反応を起こしていたように思う。濃密すぎる時間をありがとう。
そして、同じ授業を受け、ともに数々の研修へ出かけた国際探究科のみんな。挑

戦をいとわずに、それぞれが自分の軸をしっかりと持っていた。思いを分かち合える、すてきな仲間たちに出会うことができた。

国際問題や日本政治といった真面目なテーマから、たわいない話題まで。みんなと一緒に話した全てがとにかく楽しかった。愉快な

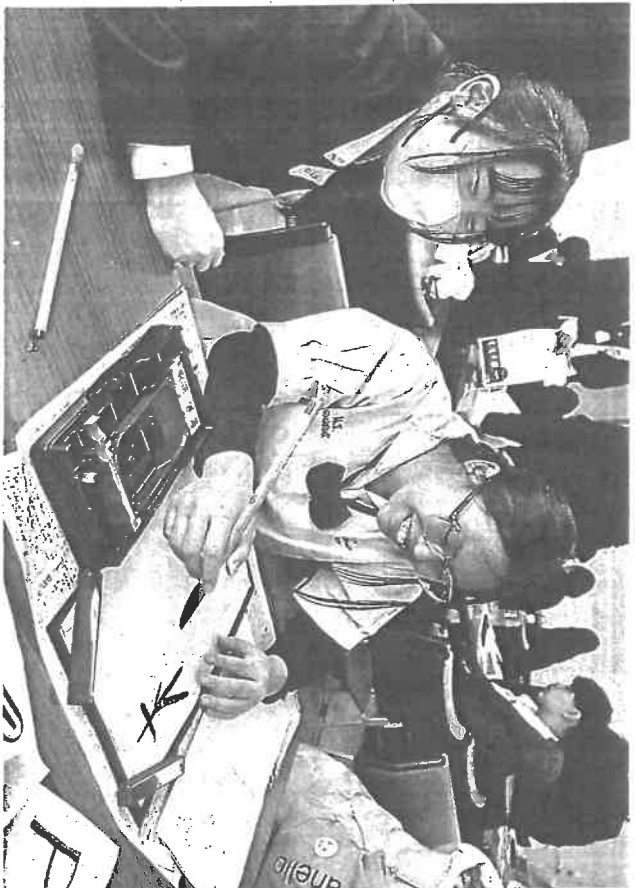
日々をありがとう。
名残惜しくて仕方がないが、皆さんの思い出を胸に母校に別れを告げようと思う。

タイの中学生

米沢興譲館高校生と交流

書道で漢字丁寧

米沢興譲館(貫根伸之7月には興譲館高生がワット・カムカムカセットさん校長)とタイの中高一貫校「タム・ワット・ワット・タム」の交流イベントが14日、米沢市の置賜総合文化センターで開かれ、両校の生徒が日本の伝統文化なこの「書道体験」を通して親睦を深めた。タイの生徒が自身の名前にちなんで漢字を練習。興譲館生に書き順や筆の扱い方をアドバイスを受け、丁寧に書き上げていた。ワット・カムカムカセットさん(16)は「書道は難しかったけど、歓迎してもらってとても楽しいイベントになったと話した。(斎藤健太)



書道などを通して交流を深める生徒たち
↑米沢市・置賜総合文化センター



山形県立米沢興讓館高等学校

校長 曾根伸之
所在地 米沢市大字笹野1101番地
創立 明治19年9月19日
生徒数 606人

在校生
message

最高の高校生活を 興讓館で

自治会長 岩瀬雄哉

私たちの学校、米沢興讓館高校は300年という日本で最長の歴史を誇る高校であり、個性豊かな生徒が日々学業に励んでいます。自分の興味のある分野の研究をすることができる授業に加え、1年生の東京探究研修、2年生普通科の関西キャリア研修そして2年生探究科の海外研修など自分を磨くことができる多彩な機会が準備されています。もちろん学業だけでなく、部活動等にも全力で取り組み、体育祭・興讓祭などの行事も全力で楽しんでいます。興讓館での学びによって、きっと皆さんの夢は実現することと思います。皆さんも一緒に最高の高校生活を送りませんか？あなたの入学を心待ちにしています。

ます。さらに、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール指定校として、「未来に果敢に挑戦できる科学技術系人材の育成」を目指し、「異分野融合サイエンス」や「スーパーサイエンスリサーチ」等の学校設定科目をはじめ、高大連携や海外研修、地域の人材や企業との協働などの多彩な取り組みを実践しています。

普通科、理数探究科、国際探究科を設置し、思考力・判断力を磨き、知識を活用する力を身に付けるため、自ら課題を発見し解決に取り組む学習を重視しています。さらに、文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール指定校として、「未来に果敢に挑戦できる科学技術系人材の育成」を目指し、「異分野融合サイエンス」や「スーパーサイエンスリサーチ」等の学校設定科目をはじめ、高大連携や海外研修、地域の人材や企業との協働などの多彩な取り組みを実践しています。

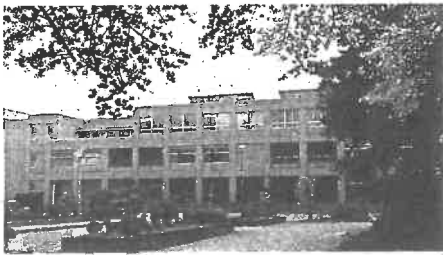
学校行事には、体育祭、興讓祭、1年生の東京探究研修、2年生普通科のキャリア研修、2年生探究科の関西サイエンス研修、国際探究研修、海外研修などがあります。部活動も盛んで、令和5年度は、フェンシング部、陸上競技部、スキー部、E.S.S.、コアスーパーサイエンスクラブが全国大会で活躍しました。

米沢興讓館高校で輝く自分を発見し、学習や部活動で素晴らしい仲間たちと切磋琢磨しながら、自分の大きな夢を実現させてください。

本校は1697(元禄10)年、米沢藩の学館を前身とする300年以上の歴史を誇る伝統校です。「興讓」の精神、すなわち「自他の生命を尊重する精神」「己を磨き、誠を尽くす精神」「世のために尽くす精神」を教育精神とし、多くの優れた人材を育て、2万余人を数える卒業生を送り出してきました。



海外研修台湾





先端的な研究学ぶ
育成塾に29人参加

米沢興譲館高生

大学での先端的な研究に関わり学びを深める、米沢興譲館高(吉田直史校長)のイノベーター育成塾の修了式と、サイエンスリーダー育成塾の入塾式が7日、米沢市の山形大米沢キャンパスで行われた。

イノベーター育成塾など

学びを深める決意を表明する
入塾生 米沢市・山形大米沢
キャンパス

では、同大の城戸淳一特任教授が10年以上前から同校生を指導してきた。さらなる高大連携を進めようと、本年度から工学部全体による教育体制に切り替え、名称もサイエンスリーダー育成塾と改めた。

研究をはじめとする1年間の活動を終えた3年生4人に、イノベーター育成塾長を務めた城戸特任教授から修了証書が手渡された。サイエンスリーダー育成塾には2年生29人が入塾。塾長の黒田充紀工学部長が「学びを将来の進路につなげるため、それぞれの興味を伸ばしてほしい」と激励し、入塾生代表が成長への決意を宣誓した。

今後、生徒は各研究室で

興味のある専門分野に取り組み、来年1月には英語による成果発表会を予定している。2年土屋心宇さん(16)は「最先端の研究に触

れることができる。自分が究めたい分野を深掘りし、自己実現につなげたい」と意気込んだ。

(斎藤健太)

米沢市の米沢興讓館高同窓会（小嶋弥左衛門会長）有志は、同校吹奏楽研究クラブなどと連携し、同校の校歌と応援歌の歌詞付き動画を制作した。同校は長い歴史を誇るが、校歌、応援歌の「公式動画」の制作は初めて。動画投稿サイトのYouTubeで見ることが出来る。

同校は米沢藩4代藩主上杉綱憲が開設し、9代藩主鷹山が再興した藩校「興讓館」を前身とする。歴史を物語るように、17曲の校歌や応援歌が受け継がれてきた。これまでは、正確な音程が分かる楽器演奏付きの動画はなく、同窓会有志が「長い歴史にふさわしい、しっかりとした動画を作ろう」と、発案した。

動画にしたのは、校歌に加え、運動部の応援などで披露する「凱歌」「栄光への道」。同窓会有志が資金を出し合い、吹奏楽研究クラブの現2、3年生が楽器演奏、合唱を担当した。撮影・編集は、IT企業のデジタルコンキョーブ（山形市）が手がけ、3月末に同校で音源の収録が行われた。背

米沢興讓館高

校歌と応援歌

初の公式動画 できた

同窓会有志制作 生徒が演奏、合唱

景映像は、卒業アルバムなくさなくてはいけない」と同校所有の写真から、歌詞に合わせて選んだ。制作費は約20万円。

制作を提案した山形座瀧波（南陽市）社長の南浩史さん（60）は同校の元応援団副団長。南さんは「世に尽



米沢興讓館高同窓会有志らが校歌や応援歌の動画を制作した

（大坪千絵）

米沢興讓館



▽部長=山下 慶信(31)

▽監督=渡辺 大也(31)

- | | | | |
|----|---------|---|-----|
| 1 | 鈴木 瑠騎也 | 3 | 米沢四 |
| 2 | 青木 誓己 | 3 | 米沢四 |
| 3 | 加藤 陽 | 3 | 高 島 |
| 4 | 吉田 一翔 | 3 | 沖 郷 |
| 5 | 五十嵐 蓮太郎 | 3 | 沖 郷 |
| 6 | 落合 冴月 | 2 | 沖 郷 |
| 7 | 酒井 七穂 | 2 | 小 国 |
| 8 | 小関 裕也 | 3 | 米沢七 |
| 9 | 後藤 隆汰 | 2 | 米沢四 |
| 10 | 佐藤 大輔 | 1 | 米沢三 |
| 11 | 土屋 優心 | 1 | 赤 湯 |
| 12 | 三浦 信 | 1 | 米沢四 |
| ⑬ | 戸田 和幸 | 3 | 米沢一 |
| 14 | 大内 優輔 | 1 | 米沢一 |
| 15 | 山口 航輝 | 2 | 米沢七 |
| 16 | 菅 琉人 | 1 | 米沢二 |
| 17 | 遠藤 滉太 | 3 | 米沢一 |
| 18 | 白石 晃太 | 3 | 米沢六 |
| 19 | 片桐 拓人 | 2 | 米沢三 |
| 20 | 須藤 暉 | 1 | 米沢六 |

戸田 和幸主将
 苦しい展開でも、主将としてチームをしっかりと立てる。試合内容に満足せず、勝利にこだわり戦い抜く。

大昨
会年
記夏
録の

▽1回戦

○11-5

新庄南・北村山・谷地・天童

▽2回戦

●0-12

鶴岡東 (五回コールド)

打撃力を発揮し羽黒コーールド

○…羽黒は13安打と持ち前の打撃力を発揮した。中でも4番山科恢心は初回に先制の2点適時打を放ち、六回にはタメ押ししの2点本塁打で中軸

としての存在感を示した。自身にとって公式戦初となった本塁打は、六回裏1死二塁の場面。2球目のインコースの直球を鋭く振り抜いた。

打球は低めの弧を描き左翼スタンドに飛び込んだ。「本当に入ったのかな」と最初は信じられなかったというが、塁を回るうちに笑顔になった。

米沢興譲館 五回に2点

▽3回戦 (ヤマリョースタジアム 山形第2試合)
 米沢興譲館 000 020 0|2
 羽黒 530 003 X|11
 (七回コールド)
 (米) 鈴木瑠騎也、後藤隆汰、鈴木瑠騎也、酒井七穂、青木蒼己
 (羽) 遠藤康太、前野大雅、曾我瑠仁一、野口大成
 ▽本塁打=山科恢心(羽)
 ▽二塁打=鈴木瑠騎也(米) 野口大成2、太田駿平(羽)

【評】羽黒が初回に4連打などで5点を先制して主導権を握り、小刻みな継投で締めた。米沢興譲館は五回に2点を挙げたが、その後は追加点は入れられなかった。(井上萌々子)

○羽黒・宮下拓夢(二回裏にセーフティーバント) サイン通り。初球で決める自信はあった。チームを勢いづけることができた。
 ●米沢興譲館・加藤陽(五回表に2点適時打) ここで絶対打つと自分を奮い立たせた。チームが勢いづき、監督に恩返しができた。



〈米沢興譲館—羽黒〉6回裏羽黒1死二塁、2点本塁打を放ちダイヤモンドを回る4番山科恢心
 =中山町・ヤマリョースタジアム山形

【米沢興譲館】

打	安	振	球
①	9	後	落
②	1	鈴	加
③	7	鈴	加
④	7	鈴	加
⑤	9	佐	野
⑥	5	五	酒
⑦	1	青	吉
⑧	2	青	吉
⑨	4	青	吉
⑩	2	青	吉
⑪	0	青	吉
⑫	0	青	吉
⑬	0	青	吉
⑭	0	青	吉
⑮	0	青	吉
⑯	0	青	吉
⑰	0	青	吉
⑱	0	青	吉
⑲	0	青	吉
⑳	0	青	吉
㉑	0	青	吉
㉒	0	青	吉
㉓	0	青	吉
㉔	0	青	吉
㉕	0	青	吉
㉖	0	青	吉
㉗	0	青	吉
㉘	0	青	吉
㉙	0	青	吉
㉚	0	青	吉
㉛	0	青	吉
㉜	0	青	吉
㉝	0	青	吉
㉞	0	青	吉
㉟	0	青	吉
㊱	0	青	吉
㊲	0	青	吉
㊳	0	青	吉
㊴	0	青	吉
㊵	0	青	吉
㊶	0	青	吉
㊷	0	青	吉
㊸	0	青	吉
㊹	0	青	吉
㊺	0	青	吉
㊻	0	青	吉
㊼	0	青	吉
㊽	0	青	吉
㊾	0	青	吉
㊿	0	青	吉

【羽黒】

打	安	振	球
①	5	田	中
②	1	中	野
③	2	中	野
④	4	中	野
⑤	4	中	野
⑥	4	中	野
⑦	3	中	野
⑧	3	中	野
⑨	2	中	野
⑩	1	中	野
⑪	0	中	野
⑫	0	中	野
⑬	0	中	野
⑭	0	中	野
⑮	0	中	野
⑯	0	中	野
⑰	0	中	野
⑱	0	中	野
⑲	0	中	野
⑳	0	中	野
㉑	0	中	野
㉒	0	中	野
㉓	0	中	野
㉔	0	中	野
㉕	0	中	野
㉖	0	中	野
㉗	0	中	野
㉘	0	中	野
㉙	0	中	野
㉚	0	中	野
㉛	0	中	野
㉜	0	中	野
㉝	0	中	野
㉞	0	中	野
㉟	0	中	野
㊱	0	中	野
㊲	0	中	野
㊳	0	中	野
㊴	0	中	野
㊵	0	中	野
㊶	0	中	野
㊷	0	中	野
㊸	0	中	野
㊹	0	中	野
㊺	0	中	野
㊻	0	中	野
㊼	0	中	野
㊽	0	中	野
㊾	0	中	野
㊿	0	中	野

▽暴投=鈴木、酒井

打	回	安	振	球
①	5	3	0	14
②	4	1	0	0
③	3	1	2	23
④	3	1	2	23
⑤	2	0	6	42
⑥	2	1	0	0
⑦	3	0	2	00

2024.7.21(日)山形新聞 17面

米沢興譲館高校 (米沢市)



今年1月には東北地区サイエンスコミュニティ研究校発表会にも出場=秋田市

SDGsを意識した課題研究

スーパーサイエンスハイスクール(S・S・H)の指定を受けて通算16年目となる米沢興譲館高校。2年生はSDGsを意識した

課題研究に取り組み、文系理系合わせて60本以上の研究が行われています。このうち「バクテリアによるコンクリート自己修復

答えのないトライ&エラー 仲間がいるから突き進めた

機能の比較検討」をテーマに取り組んだチームに話を聞きました。
「自己修復コンクリート」は建設業界を中心に注目の新技術。バクテリアをコンクリートに配合しておき、ひび割れが生じると休眠していたバクテリアが活性化、炭酸カルシウムを生成しひび割れを埋めるというもの。しかし高価などの理由から普及が進んでいません。そこで身近なバクテリアを用いた安価な自己修復コンクリートの作成方法確立を目指し、研究に取り組みました。
納豆菌、イースト菌などは既に活用されていると分かり、着目したのは日本酒造りに欠かせないこうじ菌。メンバー向

機能的比較検討」をテーマに取り組んだチームに話を聞きました。
「自己修復コンクリート」は建設業界を中心に注目の新技術。バクテリアをコンクリートに配合しておき、ひび割れが生じると休眠していたバクテリアが活性化、炭酸カルシウムを生成しひび割れを埋めるというもの。しかし高価などの理由から普及が進んでいません。そこで身近なバクテリアを用いた安価な自己修復コンクリートの作成方法確立を目指し、研究に取り組みました。
納豆菌、イースト菌などは既に活用されていると分かり、着目したのは日本酒造りに欠かせないこうじ菌。メンバー向



(前列左から)横山光太郎さん、横山夢人さん
(後列左から)和久井響さん、原千夏さん



士、時間をやりくりし、意思疎通を図りながら実験を重ねました。結果だけを見れば、ひび割れを埋めることはできませんでした。しかし、答えのないものに向かってトライ&エラーを繰り返して、得た思考のプロセスはかけがえのないものだと思えます。

この研究でチームは県内外の発表会に出場。他校のよりすぐりの研究に触れ、視野が広がりました。「研究を通じ精神的にも成長させてもらった。今後の進路にも生かしたいです」

若者の声

米沢興譲館高

男女賃金格差はおかしい

2024. 8. 29

■1年 洪間晴翔

男女間での賃金格差はいまだ大きい。女性の生涯

収は男性の8割ほどである。なぜこんなにも差があるのか調べたところ、「男女間の仕事の能力差」という意見があった。男女の仕事内での行動に差があるため、給料にも差が生まれるというものである。しかし、本当に男女で行動の差などあるのだろうか。

あるマネジメント誌が調

査を行ったところ、男性と女性の行動の違いはほとんど見られないことが分かったそうだ。仕事中の動き方も、パフォーマンス評価も、男性と女性には差はないという研究結果も出ている。

「男だから給料が高い、女だから給料が低い」という偏見は明らかにおかしい。女性は昇進がしづらいため給料が上がりにくいという見解もあるが、男性と働き方が同じなら、昇進の機会は平等にあるべきだと考える。むしろ、男性も女性も関係なく、真に優秀な人材を上役に上げた方が、企業からしても良いのではないだろうか。

紙面編集・加藤靖子

若者の声

米沢興讓館高

数的少数者に寄り添おう

■1年 鈴木蓮花

2024. 8. 30

これまでの社会は、多数派の人々によって動いてきた。例えば、人口の約2%とされている車いすユーザー。こうした方々の意見や

要望は時に「わがまま」だとされることもある。それは、健常者が彼らの要望を「配慮しなくてはならない」と煩わしく感じてしまった



めかもしれない。しかし、それは決してわがままなどではない。誰もが幸せになりたいのだ。誰もがよりよく生きていこうという思いを持っている。その「当たり前」を念

頭に置き、その上でかなえていくべきものを優先的に見極める必要がある。世界はいつだってどこどこで平らではないからこそ、数的少数の人々の思いに寄り添っていかなければならぬ。誰かが、どこかで、誰かのための我慢をすることももある。みんながその覚悟を持っておくべきだろう。そして、何より個々が当事者となって社会に参加することが最も重要だと考える。

ごくうれしかったです。初めてのことだから分からないことが多く、両親は近所の人たちと話し合いながら片付けをしていました。地域の人たちと協力することの大切さを知りました。

今まで通り安全に暮らせるまで、祖母と叔母の家族が自分の家で一緒に暮らしています。災害があつてからではなく、普段から地域の人と関わり、協力して暮らしていくことが大事だと思えました。早くいつも通りの生活ができるようになればいいと思います。

若者の声 米沢興譲館高

多様な性理解 親も必要

2024. 8. 31

1年 浜田空良

私たち高校生や大学生は、学校で性の多様性について学んでいる。しかし私たちの親世代は触れもしなかつたろう。私は、親世代に多様性を理解してほしいと考えている。

親世代の皆さん、子どもや親戚に「男らしく」「女の子だから」などという言葉を投げかけていないだろうか。このような言葉で苦しんでいる子どもたちがいる。生物学的には男子だが、女子になりたい人もいる。女性と結婚したい女性もいる。

私たち世代にとつてはこれが「普通」なのだ。しかし、周りの目が怖く、何を言われるか分からないから言えない人たちがいることも理解してほしい。もし勇気を出して告白した人がいるなら、温かく受け入れてほしい。それがその人の幸せにつながる。

誰もが生きやすい社会とは、全員が自信を持つて自分のことを打ち明けられる

社会だと私は思う。これを実現するためには、皆さんの理解と思いやりの心が必要になる。生きづらさを皆さんの心の温かさで、溶かそうではないか。

名字は個性、選択肢あれば

2024.9.3

■1年 新野日穂

皆さんは選択的夫婦別姓制度を知っているだろうか。夫婦が望む場合には、結婚後も夫婦が結婚前の氏を称することを認める制度だ。今の日本は夫婦同姓となっている。確かに子どもの氏を決めるときに問題が起きてしまう可能性もある。また、家族の一体感があつて良いという意見もあるだろう。しかし、このまま夫婦同姓にすると、日本人の名字が全員「佐藤」になるというデータも出ている。そうすると名字での個性が無になってしまう。しかも、自身の両親が名字を含め、画数などで縁起が良い名前になっている場合もある。名字という個性やアイデンティティーが失われてしまうことはとても悲しいことだ。

多くの選択肢が増え、自分が望む生活や人生を制限されないようになれば良いと思う。

私は、夫婦同姓だけではなく、選択的夫婦別姓という選択肢を増やしても良いと考える。多くの人がさまざまな生活や人生を送れるように社会全体でより多

若者の声 米沢興譲館高

抱える課題 熟議し変革を

■ 1年 井上颯一朗

東京都世田谷区、渋谷区で同性カップルを認証するパートナーシップ制度が導入されてはや9年。日本初の取り組みであったこの制度は瞬く間に全国へと広がり、本県でも今年1月に導入するなど身近な存在となりつつある。

しかし、私はこう考える。「私たちは本当に求められている熟議を重ねた上で意見を表明できているのか」と。そして、私たちはしばしば「聞こえの良し」、「機会の平等」という言葉を「な

んとなく」推してしまいがちである。

パートナーシップ制度は、あくまで法律婚と同等程度の権利を保障したものにすぎない。いくら権利が同等程度保証されたとはいえ、明確な区別、線引きがなされていることについて憤慨する市民の声を、私は知らない。

加速度的に結婚の価値観が変わり続けている現代社会において、結婚という素晴らしき行為の本質に迫り、「現代の結婚」を再定

義せんとする市民の声を、私はいまだに知らない。

そして、最も重要なのが、これらの視座は「なんとなく」では絶対に見つけられない視座ということであ

る。これは能動的な学びの海から得られる視座なのではないだろうか。

国の権力は国民に由来する。これは、日本国憲法の前文に記されたものである。

る。同性婚に限らず、私たちの抱える課題に、熟議を交えた変革が求められている。

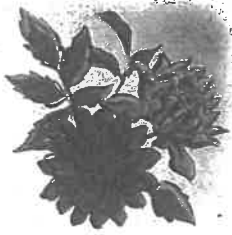
紙面編集・鈴木大和

夫婦同時の育児取得推進

■1年 坂野珠希

SDGs(持続可能な開発目標)の一つでもあるシングル親(シングル親)の増加は、日本でもさまざまな問題を生み出している。しかし、現代社会では家事、育児、子育ての負担が、女性だけでなく、男性にも増えている。これは、日本でもさまざまな問題を生み出している。しかし、現代社会では家事、育児、子育ての負担が、女性だけでなく、男性にも増えている。

私は、シエタ平等の社会を実現するために、夫婦同時の育児取得の取得を推進すべきだと考える。その考えの理由の一つとして、男性の育児取得率が13%と低いことを挙げる。政府が男性の育児取得を推奨しても、男性が休みにくい雰囲気は、いまだに醸成されてはいない。男性が担うことのできる負担を、女性が背負わなければならないのだ。育児や家事の苦労や、負担を女性が一手に背負うことは、シエタ平等な社会とは遠くかけ離れているのではないだろうか。生物学的な視点から考え



2024.9.5(木) 山形新聞 5面

若者の声 米沢興譲館高

仕事と子育て両立重要

■1年 平間愛二

では私たちにできることは何か。私は、まず一人一人が「イクメンなんて至って普通」という意識を持つ

現在日本では、少子化が急速に進んでいる。昨年の合計特殊出生率は、2005年と22年の1・26を下回り過去最低の値となった。歯止めのかからない少子化に効果的な対策を打つ上で、仕事と子育ての両立が重要だ、と私は考える。

共働き世帯が増加する中、女性の家事・育児時間は、男性の約4倍になっている。厚生労働省の調査によれば、夫の家事・育児時間が長いほど、第2子以降の出生率が高まるようだ。従って、男性の家事・育児時間を延ばし、仕事と子育てを両方実現することが、少子化を食い止める上で極めて重要だろう。



こと、次に啓発することだと思ふ。これだけで政府・企業・社会の風潮は変えていける。「雨垂れ石を穿つ」。これからの日本を担う私たちの意識と行動で、日本を改革していくことではないか。